

IMFの世界経済見通しと2022年の世界経済のリスク

◆ IMFが世界経済見通しを4.4%に0.5ポイント下方修正

2022年1月に国際通貨基金（IMF）が世界経済見通しを発表し、22年の世界の実質GDP成長率を前回（21年10月）から0.5ポイント低い前年比4.4%とした。大型財政法案の成立が遅れる米国、新型コロナウイルスの感染拡大で行動制限を行う中国やユーロ圏などの見通しを大きく下げた。一方、日本は過去最大規模の補正予算などの財政支援策を評価して3.3%と0.1ポイント上方修正した。

23年は前年比3.8%と0.2ポイント上方修正したが、21年5.9%、22年4.4%からみると減速している。

IMFの世界経済見通し(22年1月) 単位:%

	21年	22年	23年	前回比	
				22年	23年
世界GDP	5.9	4.4	3.8	▲0.5	0.2
先進国	5	3.9	2.6	▲0.6	0.4
米国	5	4	2.6	▲1.2	0.4
ユーロ圏	5.2	3.9	2.5	▲0.4	0.5
日本	1.6	3.3	1.8	0.1	0.4
英国	7.2	4.7	2.3	▲0.3	0.4
新興国	6.5	4.8	4.7	▲0.3	0.1
中国	8.1	4.8	5.2	▲0.8	▲0.1
インド	9	9	7.1	0.5	0.5
ASEAN5	3.1	5.6	6	▲0.2	0
ブラジル	4.7	0.3	1.6	▲1.2	▲0.4
メキシコ	5.3	2.8	2.7	▲1.2	0.5
CPI					
先進国	3.1	3.9	2.1	1.6	0.2
新興国	5.7	5.9	4.7	1	0.4

注: ASEAN5はインドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム。

出所: IMFのデータを基に旭リサーチセンター作成。

◆ 22年に警戒すべきは新型コロナウイルスの感染再拡大

IMFの経済見通しは22年末までに新型コロナウイルスのワクチン接種率が全世界で向上し、感染の不安が解消して経済活動が回復することを前提としている。ただし、IMFは①新型コロナウイルスの感染再拡大、②FRB（米国連邦準備制度理事会）の政策正常化による金利上昇、③サプライチェーンの混乱、④慢性的な高インフレ、⑤中国不動産市場の混乱を今後の警戒すべき主なリスクとしている。

21年を振り返ると、新型コロナウイルスの感染拡大がサプライチェーンを混乱させ、米国では労働市場のひっ迫から慢性的なインフレが定着するリスクが高まり、FRBは金融正常化に舵を切り始めた。IMFは21年に新型コロナウイルスの感染拡大とサプライチェーンの混乱による供給制約ショックが世界のコアインフレ率を1.0%押し上げ、世界経済を0.5%押し下げたと分析している。この経験を基に考えると、22年も新型コロナウイルスが変異によって感染の再拡大を世界にもたらすと、IMFが警戒すべきとしたリスクのいくつかと複合して経済活動の回復を妨げる。これが当面の22年における警戒すべきリスクの第一であろう。

【藤井和則】